

**農業環境における放射線影響ゼミナール（大学院）**  
**農業環境の放射線影響（学部）**  
**アンケート（平成 25 年 7 月 22 日）**  
**（溝口先生）**

1. 私自身も 4 月に溝口先生に同行したが、”現場に行かないとわからないもの”の発見が非常に多く、放射能汚染についてのいくつかの考えがかわったのを思い出した。今回の講義の中では、菅野村長の発言の「20%は大学とマスコミとの闘いだっただ」という点が印象深い。かつての水俣病問題をはじめとした公害問題についても学者による二次被害のようなものが問題になったし、今、私が社会学的なフィールド調査を行っている宮城県の被災地においても、人々の”調査づかれ”が一つ問題となっている。現地調査における専門家や大学の役割としては、あくまでも「現地での問題解決のために自らの知を発揮する」ことであり、現場と離れた研究者自身の問題意識や関心解決のために現場を材料にするようなスタンスではいけないのだと思う。また研究者自身が何度も現地におもむき、地域住民と作業や会話を共にし、信頼関係を構築する必要があると思う。研究者—住民という関係の前に、人間同士のつきあいを始め、地球に貢献していく態度が必要だろう。研究倫理のような話になってしまったが、私自身も、被災地や一度でも飯舘村に関わった身として、今後もこのようなことを真剣に考えてゆきたい。
  
2. 大学全入時代とも言われていますが、受験戦争から一時解放され、就職までの束の間のモラトリアムを楽しむ場として「大学」をとらえている学生などとも思います。大学が当たり前ものになりつつある今、大学の役割について考える機会があまりなかった私にとって、改めて社会にとって大学とは何なのだろうと考えさせられました。農学はまだ社会とのつながりを持ちやすい分野だと思いますが、基礎研究をしている研究者や、特に文系の研究者などはあまり社会に対して直接役に立ちやすいとは言えないと思います。そういった分野であっても、人材育成や、社会とのコミュニケーションを積極的に取っていくことでやっていることがどう社会に貢献しているのか、どう貢献していけるのかを考えて、アピールしていくことが重要だと思いました。
  
3. 卵やプリンのおもむきもまじえてイメージのわかりやすい、分かりやすい講義でした。降り積もった放射性セシウムを集めることがポイントなのだということがわかりました。特別に線量の高い地点が見つかることが、一見マイナスのようだけど他の場所から集まってきたのだと思えば良いことなのだという考えは今までなかったのでおもしろかったです。  
はぎ取った汚染土を本当なら穴に埋めるだけでいいのに感覚的に受け入れられないか

ら他の方法を考えなければならないというような話が印象的でした。食品の基準値などにしてもそうですが、科学的に問題がないと認められるのにどうしてそれよりも感覚が優先され手間を増やさなければならないのかと悔しくなってしまいます・・・。

関係ないかもしれませんが山本太郎氏の当選から、このような科学的な知見、実験結果を無視し不安感に支配されている人が多いことを知りショックです。結局研究の意味がなくなってしまう気がして、このような人をどう変えることができるのか最近よく考えざるをえません・・・

逆に大学の研究でこれが正しいとされたことが現場ではそぐわないということがあることもあり難しいと思いました。研究に走らず、復興に必要な対策を考えなければならず、そのためには現場の人との「協働」が不可欠であり、研究室にこもってはいけないのだということをおぼえておきたいと思いました。

4. 今回お話を伺って最も強く感じた心象は「現場を見ることの必要性」です。新聞やニュース等で流れる間接情報と現場の実情に大きな開きがあることは現場体験を積み重ねた溝口先生のお話を聞いてよく分かりました。そして実際の復興様相は理論だけの適合では到底不十分であるということも領けました。(例えば飯舘村での放射線セシウムの除染の工程は、理論では上層土を取り除くことで終息するのだといいますが、実際は雨水等の天候条件やイノシシによる土地荒らし等、様々な要因で一筋縄ではいかない実態が窺い知れました。)このような逆境を逆手にとって「ふくしま」を売り込む良い契機と捉えて地域振興策に乗り出そうという先生の見解には大いに賛成です。不本意ながらその知名度を世界的に高めてしまったからこそ、海外展開を強めてふくしまのブランドイメージを世界に定着させるチャンスであると私は考えます。その際には産学官民が協働し、総力をあげて売り込むことで日本の全体的な結束力も強まるのではないかと期待します。
5. 個人的に、地域社会(民間)に向けて大学がなすべきことは、様々な事象を調査、解析して、得られた知識や情報を伝える事だと思っています。調査や解析は十分に行われていると思いますが、情報や知識の伝達がまだ十分ではないような気がします。もっとメディアと協力するなどして、今回の講義内容を放送したり、twitter や facebook の利用を上手く行えば、もっと広く人々に知れ渡ると思います。
6. 大学の社会的責任とは” 今まで直面したことがない問題に対して、自分の頭で新たな価値を創造すること、または、創造できる人材の育成” だと考えられる。  
大学受験までの決まりきった方法で 1 つの答えを導く考え方は忘れ、自分の問題設定をし、解決できる能力を導く能力を伸ばしていくことが必要である。
7. 新聞記事の、恣意的な一部内容削除にはとても驚いた。村の実情に合った対策を試行

錯誤してひねり出し、実践することは、とても良いことだと思ったし、今日の話聴いて、現場に合った方法を考えて取ることが大事だと思った。

8. 大学や専門家は、研究室の中で、状況依存した知見を集めるだけでなく、現場を見て、ローカルナレッジを利用しながら、税金を使って、様々な知見を社会に還元していくことが大切だと思う。
9. 田んぼからセシウムを洗い流す方法に、寒さによって凍ったことを利用するというのはおもしろかった。先生のおっしゃる通り、セシウム=表層の泥口考えるとすると頭に入ってくるのでありがたかった。今回の授業はスライドや発言に工夫がこらしてあったのでとても聴きやすかった。
10. 今日は、原発事故による農業への問題について、専門知識を社会にどう活用していくのかについてお話いただきました。「大学」という教育機関がどうやって社会に貢献できるかについて色々考えさせられました。  
レジュメも分かりやすく、よく理解できました。ありがとうございます。
11. 農地の除染に関しての研究をおこなう中で、より優れた除染方法を生み出そうとしてきたことがわかった。  
また、「大学」の役割について考えさせられた。「震災復興」のために様々な分野の学者が被災地である東北をフィールドに研究をおこなっている。これは地域との協働・地域貢献という、研究とは別の大学としての役割にもなっているだろう。もちろん研究を進めることが「大学」の役割の中心であるが、それ以外にも地域社会への貢献や人材育成といったことも大学は期待されているのだ。教育や研究だけしかおこなわない大学は社会とのつながりが無い閉鎖的環境になりやすいだろう。地域社会に自分達の研究を還元していくことでこそ、大学の社会的な役割が果たせるのではないかと感じた。さらに地域社会への貢献は一般社会の大学に対するイメージを変えることにつながると思った。
12. 農地の除染の目的は農作物の放射性物質を減らすことにあるのではなく、空間線量を減らすことにあるということなのか。
13. 水田に水を満たすことで放射性物質の出てくる量を減らすという話が面白かったです。個人的には水ではなく水に何か今後に影響を及ぼさない物質を溶かしてやったりするとその効果はさらに大きいものが見込めるのではないかと考えます。  
また、先学期で話されていた凍った表土を取り除く作業は実際どの程度実行されているのか気になりました。(代替法もあるのも分かりますが)

14. 下流の女性のクレームもそうですが、一般の方に除染の効果あるいは汚染された土壌の扱いをなかなか分かってもらうのはとても難しいことだということを、最近、自分の親に一生懸命福島野菜は安全だと説明してみても初めて分かりました。  
先生の除染の取り組みは他の授業も合わせて何度か聞いていますが、毎回、少しずつ活動が進んでいて良かったです。  
一日も早く現実に土水の除染を完了させ、また他の地域の人々にも理解してもらえる日が来るよう自分ができることは何かについて日々考えていきたいと思えます。
15. 除染という一つの目的の為に様々な手法が考えられており、一つひとつに工夫を感じた。  
農学的手法、工学的手法の比較がおもしろかった。
16. 土壌中の汚染物質の除去に国から許可がいるのは知らなかった。確かに、汚染物質の除去などは地域の住民に多大な影響を与えるので国が介入してくるのは仕方ないことかもしれない。また、大学として、現地で活動する際も、特別の許可も必要らしい。(今まで知らなかった) こういう決まりは地域住民の自発的な取り組みや、大学関連の調査などを阻害する恐れがある。許可をもらう為に交渉を必要とするが、その交渉期間のせいでタイミングを逸することもあるらしい。果たしてこの制度は現地復興のためになっているのかと疑問に感じてしまった。
17. 2013年3月15日からの農地の放射性物質汚染への溝口先生の対応は素晴らしいと思う。農水省の表土はぎ取りによって生じた、汚染土の行き先のなさ、平坦でない中山間地、雑草地、動物に踏み荒らされた畑などを見た上で寒い飯館の冬という情報から凍土はぎ取り法を考えだされ、さらに雪解け後は泥水による除染のように理論と実践を両立させた素晴らしい対応だったと思う。  
また、気になったのだが、セシウムが付着した粘土を含む泥水を池にため、埋める実験の際に、地下水を汚染するとクレームを入れた人の存在と、元の文章の一部を削除した新聞社の存在だ。いくら $^{137}\text{Cs}$ のSi四面体の六員環への特異的な吸着について説明しても一向に理解を示さなかったようだが、これは放射性物質に対する日本人のアレルギー的な感覚を示していると思う。今後は義務教育で原子核、放射線、クーロン力といったものへの理解を広めてゆくべきと思う。マスコミについては各団体にはそれぞれの思想、利害関係、金勘定の元行動していることをきちんと理解しておかなければと感じた。
18. 今回の授業は放射線の影響に関するものというより、研究者がいかに地域社会に自分の研究を還元できるのか考える良い機会になりました。私は食品に関する研究を行っ

ており、その内容は比較的社会にどのように役立つことになるのか分かりやすい内容です。しかし、いずれは基礎的な研究を行わなければならなかったり、緊急時に知識が必要とされた時どのように行動していけば社会に還元できるのか考えたいと思うようになりました。

今は自分の研究と社会の貢献についてよく考えたいと思います。そしていずれは自分の行ったことすべて社会に還元できる人間になりたいと思いました。

19. 原発事故後、土壤に固定されたセシウムの除染方法として、表土削り取りや田車の利用、反転耕等、色々な方法がある。しかし、現地の人々、大学等の研究機関、マスコミ等の報道機関、一般の人々ではこのことに関しての理解や内容が違う。現地の人々と大学が現場で対策を進めても、しっかりとした報道がなされなければ、一般の方々にはまるで理解されない。よって現地の人々にとっては土水の汚染の対応だけでなく、マスコミや理論だけの研究者にも苦勞している。

20. 飯館大吟醸が発売されたらぜひ飲んでみたいと思いました。

菅野村長の発言に驚きました。

修士一年ですが、研究のあり方について日々考え続ける必要性に気づかされました。

21. 今まで聴講した一連の講義の中でも、現場主義実践的な面は大きかったと思う。溝口先生が自ら現場に定期的におもむいているため、どれくらい実践しているかというのが講義ににじみ出てくるのだと感じた。講義中の言葉で「予算が無いときは工夫するしかない」というのが印象的だった。なまじ予算が潤沢にあると工夫が生まれにくい（場合も多い）。大学の手続きは書類上のものが多く、時間がかかって機会を逸してしまうこともあるが「NPOのおかげでお膳立てしてもらって」という言葉は、現在NPOに携わる者としては非常に嬉しく思った。3.11の震災の後にも判明したことだが、NPOの強みはタイムリーに臨機応変に対応できることである。1990年代に生まれた、マルチステークホルダー（プロセス）という考え方に基づき、大学、企業、行政、NPOといった様々なステークホルダーがフラットな関係で、互いの強みを生かしながら社会問題の解決にあたることができればと思う。

飯館村の酒や農産物を活かした特産品の試みは非常におもしろいと思う。例えば静岡県のJAでは規格外のみかんをペーストやシロップにし、サントリーホールディングス（株）や山崎製パン（株）の製品の原材料として使ってもらい、三ヶ日ブランドをアピールする方法で売り上げを確保している。また、富山県のJAではハトムギを農家から買い取り、ハトムギ茶としてJAが設立した子会社が製品化している。最終製品まで加工しても良いが、素材として企業に売り込むという可能性もあると思う。「まとめ」にあった「現物を見ること」「走りながら考える」という考え方に共感する。アカデミックな分野では机上の空論ということもありがちだが、現物から離れず、また、理想

論ばかり言っても物事は進まないのです、この2つを心にとめて修士課程の今後に取り組んでいきたい。「つながる」「つづける」という言葉も重要なキーワードである。それらに加えて「つたえる」「つたわる」という言葉も追記したいと思う。

22. 今回の講義を通して、今現在福島復興に対してどのようなことが行われているのか知ることができました。また、卵やプリン例を用いて土壌やセシウム状態を表しており、面白かったし非常に分かりやすかったです。特に科学的なことが分からない人たちに向けてあのように身近な物を例に説明する工夫というのは是非参考にしたいと思いました。

あと、実際に現場へ足を運び、自分の目で見てみることの大切さを感じました。メディア等を通して情報を得るのも悪くはないと思いますが、実際に赴き現地の話を聞いたり、その環境に触れ合ったりすることによって、現場に行かないと分からないことがきっとたくさんあるのではないかと感じました。